

新型コロナウイルスへの対応

2019年（令和元年）末に中国武漢市で発生した新型コロナウイルスは、1月には世界の主要各国に拡散し、2020年（令和2年）6月22日現在、全世界で感染者約9百万人、死者約0.5百万人と猛威を振るっています。人類は今まで、天然痘を始めとし、結核、コレラ、ペスト、インフルエンザ等の各種感染症を克服してきました。しかしながら、今回の新型コロナウイルスは、今のところ、有効なワクチンおよび治療薬がなく、感染者の拡大を抑えることができない状況下であり、高齢者や糖尿病・呼吸器系などの基礎疾患のある方が重症化しやすいという傾向にあるようです。

また、今回のウイルスは、①無症状・軽症の方の割合が多い、②潜伏期間が比較的長い、③陽性者が陰性になったにも関わらず再陽性になる等、厄介な特徴をもっており、感染防止が非常に難しいウイルスだと言われています。

もしこのウイルスが真和館に入ってくれば、入所者の多くは、高齢で基礎疾患をお持ちの方が多く、多くの方が重症化したり、最悪の場合、多数の死者がでる可能性があります。

そこで、2020年（令和2年）2月22日（土）に熊本県下で初の感染者が発表された翌日の2月23日（日）には、新型コロナウイルスを館内に入れないため、「新型コロナウイルスの水際対策」を策定し、実行に移しました（内容は、不要不急の外出禁止（病院、買い物、学習会、デイサービス等）、外部者の来館禁止、手洗いうがいの励行、毎日の健康チェック（体温測定等）など）。

真和館の入所者は、依存症者（アルコール、ギャンブル、薬物など）が多数いるため、依存症の回復支援プログラムとして、外部の自助グループ・学習会への参加や、自助グループの方をお招きしてのミーティング等を実施していましたが、感染リスクヘッジのため、これらも一時中断することにしました。

さらに4月15日（水）には、新型コロナウイルスが発生した場合の対応策として、「新型コロナウイルス発生時の維持すべき介護・支援業務（サービス提供）の最低基準」を定め、いざというときに備えることに致しました（新型コロナウイルスにより、職員数が減った場合の対応を策定）。

このように少しずつ各種対策を練っておりますが、私どもは、新型コロナウイルスについての知識が全くない素人の集団であり、何を準備し、どう対応すべきか殆ど分からない状況です。

また、新型コロナウイルスの早期の終息も見込めませんので、長期戦覚悟で、試行錯誤しながら、新たに判明した知見などをもとに、施設としての更なる対応策を練って参ります。

お誕生者の案内

7月	1日 緒方さん	10月	4日 藤岡さん
	10日 和田さん		4日 飯干さん
	16日 前川さん		9日 松本さん
	18日 岡崎さん	11月	1日 雨森さん
	19日 東條さん		5日 村上さん
8月	23日 外井さん		24日 河野さん
	31日 林さん		25日 葉井さん
	18日 佐藤さん		27日 田山さん
	18日 田中さん	12月	5日 川上さん
	24日 高田さん		8日 西山さん
9月	27日 増本さん		9日 尾崎さん
	30日 森川さん		14日 橋本さん
	31日 宮本さん		17日 小野さん
	1日 藤本さん		30日 畑野さん
9月	24日 村上さん		
	25日 佐藤さん		

編集後記

地域で開催される自助グループや学習会も休止や中止となっていました。オンラインミーティングのおかげで、入所者の方は、新たに海外の仲間とつながりを持つことができました。新型コロナウイルス感染症も少しずつ収束に向かってはありますが、まだまだ油断はできません。一人ひとりが自覚ある行動を取り、一日でも早く通常の日常に戻ることを願っております。

<編集責任：田上>

発行：社会福祉法人 致知会
救護施設 真和館
〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村鳥子3072番地
TEL:(096) 279-1121 FAX:(096) 279-1122
E-mail:shinwakan@utopia.ocn.ne.jp
HP:http://www2.ocn.ne.jp/~titikai/index.html

※「風の彩り」に掲載されている写真等は、ご本人の了解を得ております。

真和館だより 第25号

風の彩り

救護施設真和館が取り組むべき2つの課題
～コロナウイルスとネット・ゲーム依存症問題～



施設長 藤本和彦

令和2年度の事業計画を策定している間（1月中旬～3月中旬）に、日本に入った新型コロナウイルスの感染が広がりました。国・県市もその対応に追われ、そして、ヨーロッパやアメリカにも急速に感染が広がり、世界的なパンデミックになってしまいました。いつかは、熊本にも入るだろうと覚悟はしていましたが、意外と早い展開となり、2月22日に熊本でも感染者が発生したという発表がありました。

目に見えず、薬の無い中で新型コロナウイルス対策は、施設に入らないように「水際対策」を取る以外に、施設としての対応策は有りません。

そこで、早速、23日（日）の午後に、「新型コロナウイルスへの水際対策」を副施設長と2人で取り纏めて、翌日から実施に移しました。

しかし、外出制限などの対策は取っても、入所者の病院受診等避けられない外出もあります。職員が持ち込む恐れもあります。完全な終息がないのであれば、いくら水際対策を強化しても、いつかは、施設にも入って来ます。

そこで、もしも、コロナが入っても業務が継続できるよう4月15日に、「新型コロナウイルス発生時の維持すべき介護・支援業務（サービス提供）の最低基準」を定めました。施設は、3密の典型です。一旦施設にウイルスが入ってしまえば、施設内に蔓延するリスクが高く、しかも、入所されている方は、高齢で障がいをお持ちの方々です。

真和館に取っては勿論のこと、どの施設に取っても、この問題は、確たる対応策が無い、頭の痛い問題であります。

真和館が解決すべきもう一つの課題は、ネット・ゲーム依存症の問題にどう向き合うかということです。

若いネット・ゲーム依存症の方が、年末に入所をされたことから、真和館の既存の入所者の中にも、ネット・ゲーム依存症の問題があることが分かり、その対応に苦労したことが、この問題の始まりでした。

そして、ネット・ゲーム依存症問題に敏感になりますと、福祉事務所から、年末から年度初めにかけて、入所依頼があった方の中に、ネット・ゲーム依存症と思われる方（4人）が、おられるということに気づかされました。

ネット・ゲーム依存症の問題は、これまでは、学生や若い引きこもりの方の問題で、救護施設には直接関係がないと思っていましたが、思わぬ形で、この問題が足元に押し寄せていることが分かって来ました。

未来を予測することは難しいことですが、ネット・ゲーム依存症の問題は、現に、起こっている問題であり、近い将来これらの方が、救護施設の入所対象者になることは、確かであります。

真和館もネット・ゲーム依存症に対する確たるノウハウや経営資源（人・物・金）はありませんが、処遇困難な若い入所者に、正面から向き合っていく覚悟が必要になって来ていると思われます。



アルコールに関する地域セミナーの開催

アルコールに関する理解の促進を図るために、阿蘇市の民生委員さんや区長さんを始めとした地域の方々や当事者、さらには、阿蘇地域の行政・公的機関の支援者、総勢51名の参加のもと、「アルコール依存症を理解する・支える」と題して「第2回地域セミナー」を開催しました。

日時 令和元年11月27日(水) 10:00~12:00
場所 阿蘇市農村環境改善センター
内容 ①講話 「アルコール依存症について～回復についての基礎知識～」
講師 熊本県精神保健福祉センター参事渡邊知子先生
②講話 「アルコール依存症、いかに再発を防ぐか」
講師 ふとりねこ焙煎所施設長 矢ヶ部孝志先生
③意見交換・質疑応答 ※5名の方から意見や質問が出されました。

入所者統計

障がい区分状況 令和2年4月1日 現在

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい			生活障がい	合計	(内アルコール依存症)
				身体障がいと精神障がい	知的障がいと精神障がい	身体・知的・精神障がい			
男	2	11	34(11)	2	8	0	3	39	(23)
女	0	1	15(8)	0	1	0	1	16	(7)
計	2	12	49(19)	2	9	0	4	55	(30)

※身体(3級以上)・知的・精神障がい(3級以上)の数は手帳所持者の数であり、合計とは一致しない。
※精神障がいの()内は統合失調症者の数である。
※生活障がい者とは手帳は所持していないが、地域で生活できない人(業界用語)。4名の方は手帳申請中。

年齢別入所者状況

	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~79	80~	合計
男	1	3	4	5	7	7	10	2	39
女	0	0	1	3	4	1	5	2	16
計	1	3	5	8	11	8	15	4	55

平均年齢 男) 61歳 8ヶ月 女) 65歳 2ヶ月 全体) 62歳 8ヶ月

令和元年度 決算報告

(社会福祉法人 致知会)

貸借対照表
令和2年3月31日現在

法人合計 (円)		負債の部	
資産の部	当年度末	負債の部	当年度末
流動資産	72,088,180	流動負債	22,354,454
固定資産	916,737,166	固定負債	151,899,227
土地	7,881,175	負債の部合計	174,253,681
建物	801,690,533	純資産の部	
構築物	15,031,041	基本金	71,446,947
車両運搬具	1,136,151	国庫補助等特別積立金	448,647,805
器具及び備品	6,426,263	積立金	67,900,000
ソフトウェア	1,497,996	次期繰越活動収支差額	226,576,913
退職給付引当資産	15,131,227	(うち当期活動収支差額)	24,881,365
その他	67,942,780	純資産の部合計	814,571,665
資産の部合計	988,825,346	負債及び純資産の部合計	988,825,346

事業活動収支計算書
(自)平成31年4月1日~(至)令和2年3月31日

法人合計 (円)	勘定科目	決算
サービス活動収益計	334,873,220	
サービス活動費用計	307,267,680	
サービス活動増減差額	27,605,540	
サービス活動外収益計	6,057,610	
サービス活動外費用計	9,063,091	
サービス活動外増減差額	△ 3,005,481	
経常増減差額	24,600,059	
特別収益計	281,309	
特別費用計	3	
特別増減差額	281,306	
当期活動増減差額	24,881,365	
前期繰越活動増減差額	247,095,548	
当期末繰越活動増減差額	271,976,913	
その他の積立金取崩額	0	
その他の積立金積立額	45,400,000	
次期繰越活動増減差額	226,576,913	

春のスポーツ大会

真和館では、毎年、春と秋の年2回スポーツ大会を開催しています。
第14回目の春のスポーツ大会を、5月27日(水)に開催しました。今回は、グラウンドゴルフ、ニチレクボール、トリコロキューブ、輪投げの4種目を行い、合計36名の方が参加されました。みなさん、入賞と各種目で準備されたホールインワン賞やビンゴ賞などの特別賞をめざして、真剣な表情で頑張っておられました。
各競技が終了した後は、卓球バレー交流会を開催しました。「職員チームには負けんぞ!」と、闘志を燃やされる方もおられ、珍プレー好プレーの連続で会場は笑いと歓声に包まれ、大変盛り上がりしました。
みなさんが笑顔で生き生きとプレーされている姿がとても印象的でした。

よし、ホールインワンを狙うぞ...

あそこに入れたらビンゴ賞だ

頑張るぞ!

宣誓! 私たち選手一同は...

しっかり狙って

山登り

新型コロナウイルスの影響により、現在、外出(アルコール学習会、食事会、買物等)を控えておりますが、入所者の健康増進とストレス発散を兼ねて山登りや歩こう会(第2・第4火曜日開催)を実施しております。真和館開設当初は、元気のいい入所者が多かったため、山登りに参加する方々も大勢いらっしゃいましたが、施設開設14年目となり入所者も高齢化しており、険しい高い山にはなかなか登れませんが、近郊のハイキングレベルの山を中心に山登りを実施しています。
なお、令和2年1月1日~令和2年6月30日に実施した山登りは以下のとおりです。

- ①3月25日(水) 立田山(熊本市) 参加者6名
- ②4月22日(水) 立田山(熊本市) 参加者4名
- ③5月20日(水) 地蔵峠~大矢岳(南阿蘇) 参加者3名
- ④6月17日(水) 鞍岳(菊池市) 参加者3名



ひまわりの会

ひまわりの会（統合失調症学習会）が開始となり、3年が経過しました。真和館には、20名弱の統合失調症の方がおられますが、精神状態の程度により参加が可能な方は、7名程です。その時々で陽性症状や陰性症状が出ている方もおられますが、ゆっくりとした空間においては、自分の思いをきちんと伝えられています。時に、参加者自身が「悩み事」を提起され、他参加者で解決案を出し合うこともあります。意見を聞いているうちに、悩んでいた気持ちが楽になり、閉会時には笑顔を見せられます。突然の問題提起にも皆さん、快く受け入れられます。学びの場であり、打ち明けられる場であり、皆さんから支えられる場であるように感じます。

このように、包み込むような穏やかな雰囲気によって時が流れていく会となっています。回復はとてもゆっくりですが、人との接し方や物事の捉え方、思考の変化や成長を感じる今日この頃です。

これからも皆さんと、**ひまわりの花** を咲かせていきたいと思ひます。



スイートピーの会

令和元年10月24日に、「スイートピーの会（知的障がい学習会）」が発足しました。メンバー構成は8名です。皆さん療育手帳を所持されており、他者とのコミュニケーションが苦手な方を中心に集まっています。時間は毎月第2、第4木曜日の13：00～14：00に行っています。会の名称はメンバーから応募して決まりました。後々知ったことですが、スイートピーの花言葉は、「門出」という意味があるということを知り、このメンバーにとっても似合っている名称だと感じており、メンバーの皆さんも、とても気に入っておられます。

「スイートピーの会」では、①自分、または相手の気持ち・情緒を理解する、②良い・悪いを判断する、③問題を解決する、④マナー・常識・規則を身につける、⑤物事を説明する、⑥上手に会話する、⑦言葉の意味を推理する、という内容の学習をしています。ほとんどが行動上の問題について考える学習です。施設内でも似たようなことが色々起こっていますので、その場で取るべき行動を明確にし、読み・書きで学び、口頭でおさらいを繰り返すことは、施設生活上に必要なノウハウを習得することに繋がっているのです。

知的障がいがあるが故に、コミュニケーションが苦手な方々が、豊かな人生を送ることの手助けになれば幸いです。

心のオアシスタバコの会

今の世の中、受動喫煙による周囲の人たちへの健康の配慮から、肩身の狭い思いをされている喫煙者も多いと思います。また、ご自身の健康のため、あるいはタバコが値上がりし続けるため、減煙・禁煙された方もおられるのではないのでしょうか。

真和館では、喫煙者を対象に、昨年秋の値上げや今年4月の改正健康増進法に関する情報提供を行っています。また、ご自身の健康を振り返っていただき、禁煙につながるよう努めています。

現在、入所されている方の中で、禁煙に成功された方は7名おられ、禁煙1ヶ月半のやめ始めの方から1年あるいは2年以上禁煙を継続されている方もいらっしゃいます。

アルコールをやめることはできても、タバコはやめられないという方も多く、やめたいという想いがあるが禁煙は難しいようです。そのような方に向けて、個別学習として「禁煙学習会」を開き、禁煙の手助けも行っています。

世の中の喫煙ルールも厳しくなっていますが、守っていただけることを願います。

ルールを守って、気持ちよく吸おう！

※当初は「真和館禁煙ミーティング」という名称でしたが、参加人数も少なく、成果も上がらなかったため、禁煙という否定的な言葉での勉強会ではなく、肯定的な名称である現在の名称に変更して、勉強会を開催しています。



令和2年度 年間支援計画

	指導班	生活支援班	医務班	調理班
4月	・対話集会 ・創立記念式典 ・心みがきの講演会 ・AA健康グループ 青空ミーティング (アスペクタ)	・誕生者食事会 ・お花見会 ・春の旅行 (食事会) ・ゴールデンウィーク特別映画鑑賞会(連休中)	・健康指導	・創立記念弁当 ・栄養指導 ・お花見弁当
5月	・対話集会 ・ピアカウンセリング (統合失調症)	・誕生者食事会 ・西原村区役 ・春のスポーツ大会・バーベQ会	・感染症予防勉強会 (食中毒)	・端午の節句献立
6月	・対話集会 ・熊本県断酒友の会一般公開セミナー ・AA九州沖縄地域 ラウンドアップ	・誕生者食事会 ・カラオケ大会 ・地域防災訓練 ・還暦祝い	・口腔ケア勉強会	
7月	・対話集会	・誕生者食事会 ・会長杯卓球バレー大会(八代市)	・熱中症予防勉強会	・土用丑の日献立 ・七夕メニュー
8月	・対話集会 ・心みがきの講演会	・誕生者食事会 ・夏の旅行 (食事会) ・お盆特別映画鑑賞会 ・青年会館杯卓球バレー交流大会 (熊本市)		・お盆献立
9月	・対話集会 ・熊本地区オープン ンスピーカーズ ミーティング	・誕生者食事会 ・夏の旅行 (キャンプ) ・西原村区役	・健康診断(第1回)	・お彼岸献立 ・敬老の日献立 ・お弁当(外部仕入れ)
10月	・対話集会 ・ピアカウンセリング (統合失調症)	・誕生者食事会 ・秋のスポーツ大会・バーベQ会	・健康指導	・ハロウィン メニュー ・非常食メニュー ・栄養指導
11月	・対話集会 ・アディクション フォーラム(火の 君文化ホール)	・誕生者食事会 ・秋の旅行 (一泊旅行) ・秋の旅行 (食事会) ・秋の旅行 (紅葉見学) ・星野富弘美術館 見学 ・西原村老人健康 づくりスポーツ 大会 ・火の国杯卓球 バレー大会 (熊本市)	・心の健康勉強会 ・インフルエンザ予 防接種 ・感染症予防勉強会 (インフルエンザ)	
12月	・対話集会 ・心みがきの講演会 ・年納め式 ・熊本アルコール 関連問題学会 ・球磨・人吉地区 合同断酒会	・誕生者食事会 ・なかよし祭り ・カラオケ大会 ・大掃除 ・餅つき ・年末・年始特別 映画鑑賞会	・感染症予防勉強会 (ノロウイルス)	・冬至献立 ・クリスマス メニュー ・年越しそば
1月	・対話集会 ・年始め式	・誕生者食事会 ・初詣		・おせち料理 ・七草粥 ・鏡開き献立
2月	・対話集会 ・ピアカウンセリング (統合失調症)	・誕生者食事会 ・植木市見学		・節分献立 ・バレンタイン メニューお弁当 (外部仕入れ)
3月	・対話集会 ・心みがきの講演会 ・益城病院アメン スト例会(年3回 ～4回) ・九州アルコール 関連問題学会	・誕生者食事会	・健康診断(第2回)	・桃の節句献立 ・お彼岸献立 ・お花見お弁当



日本全国 として 世界の仲間 とつなぐ

オンラインミーティング

新型コロナウイルス感染拡大前の真和館では、地域で開催されている自助グループのAA(アルコールリクス・アノニマス)や断酒会、病院の院内ミーティングや病院の院内例会の参加はもとより、自助グループ主催の九州各県のイベント、熊本県や熊本市の精神保健福祉センター主催の学習会等に参加していました。

しかし、感染が拡大し自助グループや学習会等のイベントが休止や中止となる中、真和館でも感染防止のために外出は控え、人が集まる場所への参加は見送ることとなりました。

そしてさらに、緊急事態宣言が出され、施設という狭い世界で過ごす生活になって行きました。今回の新型コロナウイルスのパンデミックにより、日本はもとより世界中の自助グループの会場が使用中止となりました。世界中の様々な自助グループが、そのような危機的な状況を克服し回復の場を確保するためにインターネットを使用したミーティングが開催されるようになりました。

真和館も5月末からオンラインミーティングに参加してみよう！ということになり、早速、機材の準備に取り掛かりました。女性だけのミーティングを手始めに、アルコール依存症であればどなたでも参加できる(オープン形式)AAのオープン・スピーカーズミーティング「ズームイン仲間」に参加、第3木曜日にはバイリンガルミーティング(通訳付き)に参加し、オーストラリアのAAメンバー2名と英語圏の女性メンバー1名の話聞く機会に恵まれました。

真和館は熊本の阿蘇山の麓にありますが、インターネットを使って世界中の仲間と回復の経験を共有できることを学びました。これからも、どんどんオンラインミーティングに参加していく予定です。

カリフォルニア時間5月23日(土) 5時半、日本時間5月24日(日) 9時半からZoomを使ったオンラインミーティング『インターナショナル日本語女性12ステップスタディー』が開催されました。

参加資格は「女性」であり「アルコール依存症者本人」(ダブルクローズド)であることです。当日は、ロサンゼルスで20年以上のリカバリー(飲まない新しい生き方)をされている日本人女性のAA(アルコールリクス・アノニマス)メンバーを中心に、アメリカや日本全国から100名の女性が集いました。そのミーティングでは2名のアメリカ在住の女性が、その国の飲酒事情やアルコール依存症を患い自助グループAAに繋がりのように回復して行ったのかをスピーチされました。



- ・日本全国や外国から参加されるので、何を話したら良いのかしら……。ちょっと敷居が高く感じてしまいました。
- ・肝性脳症のことを話しても良いのかしら？施設でのことを話しても良いのかしら？自分と同じ病気の人が、同じようなことで苦しんできたのを実感しました。
- ・もっと多くの人とお友達になりたいな。



- ・体験談とか考え方を聞けて良かった。知らない人でも歓迎してくれるということは、仲間意識があるのかな。
- ・皆が和気あいあい、とても信頼関係があるように見えました。

やっぱり、色々な女性のそれぞれの体験を聞けて良かったです。



心みがきの講演会

令和元年10月30日(水)に、心みがきの講演会を開催しましたのでご紹介させていただきます。

講師：滝谷 様(北海道在住のアルコール依存症当事者)

演題：「依存症からの回復」

私は40歳から再スタートし、酒を止める生活を続けています。最初に精神病院に入ったのは32歳でした。離婚になってすぐで、気付いた時には保護室でした。虫は出るし、飯を食べてもすぐ戻すし、震えが止まらない状態で、すごい禁断症状でした。それまで、酒を切った事がなく、酒浸りの人生でした。結婚してる時も、禁断症状で、下着が絞れる程汗を掻いてました。ようやくご飯が口に入ったかと思ったら、また吐き出してしまうんです。アルコールってこんなに恐ろしいものかなと思いました。

その病院からアルコール回復施設に入所し、自助グループにつながりました。自助グループの中で、自分を見つめる作業を繰り返して行く内に分かってきた事があります。それは、誰にも相手にされない自分というものを肌で感じる事です。私は、建設関係の仕事で現場監督をしていたんですが、仕事を辞めてからは誰も相手にしてくれません。行き着いた先が精神病院だったのですが、そこに行き着いて良かったと思えました。過去に私は刑事事件を起こしています。恐喝、窃盗、住居への不法侵入もあります。

自助グループでは徹底して棚卸しをして、壮絶な人生を歩んでいた事が分かりました。こんだけ酒を止めてるんだからもう止めれると思いました。それから長年の夢だった息子との同居をする事となりました。すると、1ヶ月で土木屋に戻り、ミーティングには行かなくなって、気づいたら小樽の留置所でした。無銭飲食でした。母親とアルコール回復施設の職員が引き取りに来て、精神病院に直行でした。その時、人生終わったと思いました。酒を飲むためだったら殺人以外何でもやってきた事を思い返しました。そういう人間が社会に出てもろくな事がない。だったらこの病院で一生を終えようと腹をくくったら、楽しく人生を送ろうという気持ちになりました。楽しく入院生活を送る内に、もう一度社会生活への希望を持つようになり、それから入退院を繰り返しながら生活を送る事になります。

酒を止め続ける中で、16年会社に勤めましたが、ばんえい競馬にはまったんです。その内退職金をあてにして、サラ金に手を出して行くんです。そうしていたら、会社には電話がかかってくるわ、ポストには封書が山になるわで……。酒を止めて17年経っていましたが、ギャンブルを止める決心はできませんでした。ある日、友人が危篤という事で、函館に行ったんです。そこで、知り合いの店に金がないのに行って、3時までいた結果、留置所に行きました。自助グループの仲間が面会に来てくれて、恥ずかしかったです。その仲間が、弁済まで請け負ってくれて、執行猶予で釈放されたんですが、あの時は酒を止めてかなりおかしな状態でしたが、ステップ1が入ってたんですね。飲まなかったんです。100%認める事ができたのかな。よく飲まないでいたなと思いました。その間仲間のことばかりが浮かびました。あちこちで聞いた言葉が浮かびました。

以上、講演内容をピックアップして紹介させていただきました。回復への過程と、特に自助グループの重要性についてご講演いただきました。

アルコール依存症学習会(地域対象)

地域の方を対象にして、アルコール依存症や断酒に関する基礎的なことが学べる「アルコール依存症学習会」を令和元年9月28日を皮切りに、その後、毎月第4土曜日(午後2時～3時)に、あそ上寿園で定期的に開催しています。

お酒に問題のある方は勿論のこと、ご家族や支援者の方、どなたでも気軽に参加できます。

令和元年度は、真和館並びにあそ上寿園の職員を講師にして6回(1回平均18人参加)、第7回以降はコロナの関係で、法人内職員のみで参加で開催しています。

- | | |
|--------------|--------------------------|
| ・第1回(9月28日) | アルコール依存症の理解と支援 |
| ・第2回(10月26日) | アルコール依存症の理解 ～酒乱とブラックアウト～ |
| ・第3回(11月23日) | アルコール依存症と認知症 |
| ・第4回(1月25日) | 否認 ～何故、否認するのか～ |
| ・第5回(2月22日) | 自助グループと日本の禁酒運動 |
| ・第6回(3月28日) | アルコール依存症の理解 ～お酒とお金～ |
| ・第7回(4月25日) | アルコールが影響を及ぼす病気について |
| ・第8回(5月23日) | 否認 ～PART2～ |
| ・第9回(6月27日) | AAインターナショナル・コンベンション |